

## 学協会活動報告 (2013年5月21日 環境災害対応委員会 補足資料)

### <日本応用地質学会>

- ① 2012.10.10 日本応用地質学会・全地連共同提案及び行動指針「来たるべき巨大地震に備えるために」を公表
- ② 2012.11.01-02 平成24年度日本応用地質学会研究発表会を新潟朱鷺メッセにて開催
- ③ 2012.11.29 日本学術会議主催学術フォーラム「巨大災害から生命と国土を守る—三十学会からの発信」の総括フォーラムに千木良会長が参加・報告
- ④ 2013.5.11 日本応用地質学会環境地質研究部会主催で「暮らしと環境保全～災害に学ぶ～」をテーマに市民フォーラムin横浜を開催
- ⑤ 2013.6.21 平成24年度日本応用地質学会総会・シンポジウムを「東日本大震災後の応用地質学の課題—新たな課題としての廃棄物処理と放射能汚染—」をテーマに、東京大学柏キャンパスにて開催予定

### <日本地理学会>

#### 1. 2012 年度活動報告

- 2012 年秋季学術大会(神戸大学)において、日本地理学会理事会・災害対応委員会主催公開シンポジウム「いま改めて二つの大震災から学ぶ——阪神淡路大震災・東日本大震災と地理学・変動地形学——」を開催。参加者約 200 名、神戸新聞等で報道。
- 2013 年春季学術大会(立正大学)において、日本地理学会理事会・災害対応委員会主催公開シンポジウム「関東平野中央部の環境特性からみた自然災害リスク」を開催。参加者約 180 名。

#### 2. 2013 年度活動計画

- 2013 年秋季学術大会(福島大学)9月28日(土)～9月30日(月)において
  - (1)福島大学うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)と日本地理学会理事会・災害対応委員会が共同で公開シンポジウムを開催予定(28日)
  - ・テーマ:福島原子力災害に対する地理学的支援
  - (2)被災地復興に関する人文系シンポと災害地形シンポを29日に開催予定。
  - (3)巡検(30日～)
  - ・自然系:いわきコース・仮(1泊2日)<断層・津波被災地・他>
  - ・人文系:原町コース・仮(日帰り)<津波被災地・原子力災害被災地・商工業関係・他>
- 京都国際地理学会議(京都国際会議場)(発表者1000人超)本会議期間:8月4日(日)～9日(木),前後に巡検において、日本地理学会はブースを設け、東日本大震災への対応を中心に災害対応への学会としての取り組みを紹介。地理学会災害対応委員会が展示に全面協力。会議では、災害・環境関連セッションが複数開催。

### <地球電磁気・地球惑星圏学会>

1. 欧文誌Earth, Planets and Space(EPS誌)で東日本大震災特集号第2弾  
“The 2011 Tohoku Earthquake”を2012年12月号としてオープンアクセス出版。  
<http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/frame/64.html>  
EPS誌では2011年の新燃岳噴火に関する特集号の出版準備中(6月出版予定)。  
“Shinmoe-dake Eruption in 2011—An Example of Less-Frequent Magmatic Activity—”  
[http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/inp/inpress\\_shm.html](http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/inp/inpress_shm.html)  
※EPS誌は地球電磁気・地球惑星圏学会、日本地震学会、日本火山学会、日本測地学会、日本惑星科学会の5学会の共同出版による欧文誌。2016年1月1日からは日本地球惑星科学連合と共同出版の予定。
2. 当学会の将来構想「地球電磁気学・地球惑星圏科学の現状と将来」を2013年1月にPDF版公開。  
[http://www.sgepss.org/sgepss/shorai/SGEPSS\\_syorai\\_Jan2013.pdf](http://www.sgepss.org/sgepss/shorai/SGEPSS_syorai_Jan2013.pdf)  
このうち、「3.2 人類社会基盤への影響」、特に「3.2.5 地上インフラに及ぼす影響」および「3.2.7 地震・津波・火山噴火による災害」などが環境災害関連事項として重要。

3. 国連宇宙平和利用委員会, 長期的持続性分科会に於いて宇宙災害低減に関する国際的なイニシアティブ活動を行っている.

#### <日本堆積学会>

1. 2012年5月18-19日 第1回津波堆積物ワークショップ(千葉大学)

申込総数: 122名(ワークショップ), 86名(巡検)

抽選の結果の参加者総数: 57名(ワークショップ), 25名(巡検)

2. 2012年10月6-8日 第2回津波堆積物ワークショップ(三重県総合文化センター, 津市)

=> 日本地質学会と共催

申込総数: 70名(ワークショップ), 36名(巡検)

抽選の結果の参加者総数: 70名(ワークショップ), 18名(巡検)

3. 2013年3月8日 第3回津波堆積物ワークショップ(東北大学)

東北大学災害科学国際研究所主催, 日本地質学会共催, 参加者総数: 58名

4. 堆積学研究特集号(Vol. 72, No. 2)「堆積物記録を用いた古地震・古津波研究の現状と諸問題」レビュー論文4編, ノート, カバーストーリー各1編, 会議報告3編

#### <日本雪氷学会>

2012/13 年冬季は昨冬に続いて全国的に低温傾向となり, 北海道と東北の13 地点で最深積雪の記録を更新し, 雪氷災害も数多く発生. 雪氷学会北海道支部雪氷災害調査チームは2012 年12 月16 日の三段山と2013年4月の富良野岳での雪崩事故について現地調査を行い, 結果を学会のホームページに公開. 3月25日には日光市での震度5強地震により, 奥鬼怒温泉郷の道路でおよそ30カ所で雪崩が発生, これについても学会員を中心に精力的な調査を実施. 2013 年3 月2 日にはオホーツク海で低気圧が急速に発達し, 道北や道東では猛吹雪や吹き溜まりが発生, 300 台以上の車が立ち往生したほか死者も9名を数え, 近年にない甚大な暴風雪災害となった. 現地調査や今回の低気圧の特徴や吹雪量予測の精度検証を通して, 気象情報による災害軽減の議論を開始. いずれも, 2013年5月17日から18日の北海道支部研究発表会(北海道大学 学術交流会館)および日本雪氷学会北信越支部研究発表会(5月11日, 新潟大学)で一部を報告. このほか, 除雪ボランティアの技術向上と交流による豪雪集落活性化への取り組みが北海道と北信越を中心に実施.

#### <日本地熱学会>

1)2012年10月24日(水)~26日(金) 学術講演会

会場:秋田県湯沢市湯沢文化会館 参加者:345名

環境、地域関連のセッションとして

1. 自然景観に調和した地熱発電の未来像

2. 湯沢市内の地熱開発の現状・共生の歴史・将来

のセッションを開催し, とともに200名以上の参加者.

10/26の15:00~16:40にはタウンフォーラムとして

1. 自然エネルギーの宝庫:温泉と地熱 を開催し, 学会参加者の他, 一般市民40名も参加.

2)2012年12月5日(水)~7日(金)

第7回再生可能エネルギー世界展示会においてアカデミックエリアでブース展示,

資料配付(来場は推定500名以上), 12/7 13:00より学会活動・地熱利用に関する講演を行う(100名参加).

#### <日本気象学会>

気象災害分野

・日本気象学会の気象災害委員会は同メソ気象研究会との共催により下記研究会を開催.

「梅雨期の大雨~平成24年7月九州北部豪雨~」2013年5月14日気象庁講堂

・2013年地球惑星科学連合大会A-AS23セッション

「都市における極端気象」を共催.

地球環境問題委員会関連

- 日本気象学会地球環境問題委員会や放射性拡散物質WG, 日本学術会議IAMAS対応小委員会のメンバーなどから構成される「原発事故を考える地球科学者の会」が, 解説書「福島第一原子力発電所事故:その地球科学的側面」(仮題)を東大出版会から刊行することとした. 既に最終稿が出そろい, この秋までに刊行予定.
- 2014年1月に公表予定のIPCC第5次評価報告書に対しては, その執筆や査読に少なからぬ数の気象学会会員が貢献した.
- 気象学会地球環境問題委員会は, 学術会議IAMAS対応小委員会等と共同で, 一般向け解説書「地球温暖化—そのメカニズムと不確実性」(仮題)を朝倉書店から刊行することとした. 刊行予定時期は2014年5月頃.